

# 第19回コブレンツ ギターフェスティバル 2011

文・写真：テレーゼ・ワシリー・サバ  
Thérèse Wassily Saba

翻訳：関塚亮司  
Ryoji Sekizuka

## ラッセル夫妻チャリティ・ゴルフと ラファエル・アギーレ

第19回コブレンツ国際ギター・フェスティバル＆アカデミー開催日前日の日曜日（6月5日）、恒例となった、デイヴィッド・ラッセル夫妻が主宰する“アフリカに飲料水の井戸を掘るNGO”の資金集めを目的としたチャリティー・ゴルフ大会が、ヤコブスベルク・ゴルフコースで開かれた。例年快晴に恵まれてきただが、今年はスタート間もなく激しい雨になり、ゴルフ場の低いところに水溜りができて池のようになってしまった。

その日の午後には、ヤコブスベルク礼拝堂でリサイタルが開かれた。演奏したのは、昨年のコブレンツ国際ギターコンクール“フーバート・ケッペル”2010で優勝したスペインのギタリスト、ラファエル・アギーレで、ちょっぴり雨に濡れ、ゴルフ用の雨傘さえ持っている聴衆全員を鼓舞するようなコンサートだった。雨の音が騒がしかったにもかかわらず、スカルラッティ〈ソナタK.141〉とギター編曲版のシューマン〈子供の情景Op.15〉の演奏が素晴らしく、テクニックも非常に印象的だった。彼は、この週末、これらの作品とJ.S.バッハ〈鍵盤楽器のためのパルティータ第1番BWV825〉編曲版などをKSG Exaudio社で録音したCDの発売記念リサイタルを開いた。

## パヴェル・シュタイドル& ガヴリエラ・デメテロヴァ（Vn）

パヴェル・シュタイドルは相変わらず人気のある演奏家で、フェスティバルのオープニングを飾った6月6日（月）の彼のリサイタルでは、ヴァイオリニストのガヴリエラ・デメテロヴァと共に演じた。シュタイドルの独特的な演奏スタイルとデメテロヴァの音楽的アプローチが、幸い同じ傾向なので、ヴァイオリンとギター

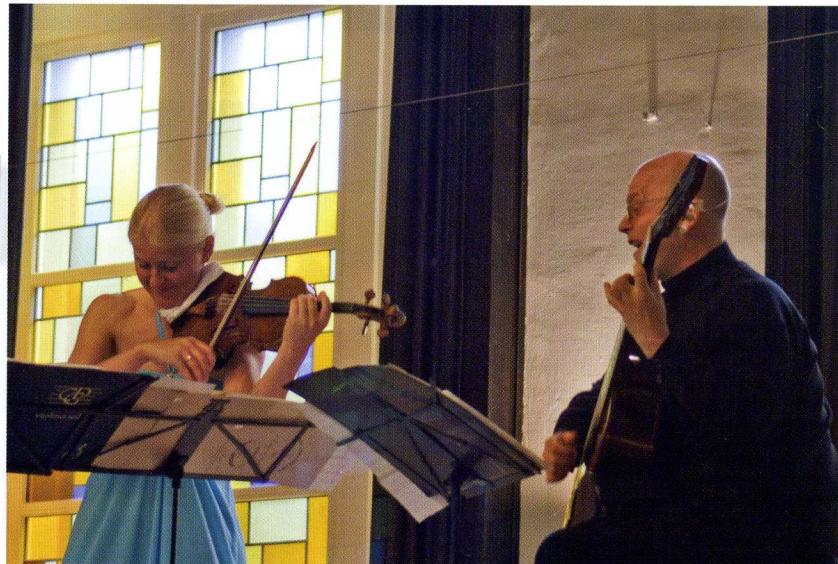
のための諸作品、ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク〈ソナタ〉、パガニーニ〈チェントーネ・ディ・ソナタ第1番〉、ヤナ・オプロフスカ〈3つのカプリッチョ〉、カルロ・ドメニコーニ〈ソナタ“River Berunka”〉など素晴らしい演奏を聴かせてくれた。2人はデュオの他に、それぞれソロ演奏も披露した。

## デイヴィッド・ラッセル

6月7日（火）に開催されたデイヴィッド・ラッセルのリサイタルはとても楽しかった。ウイリアム・バード〈深い緑の森よ〉、装飾音がきれいなヘンデル〈チェンバロのための組曲第7番〉、J.S.バッハ〈シンフォニア〉のほか、彼のアルベニス作品を集めた最新CD『イサーク・アルベニス作品集』の中から数曲を選んで演奏した。

## マヌエル・バルエコ&北京ギターデュオ

今年のマヌエル・バルエコは、最終日（6月13日）のマチネで、彼の弟子である北京ギターデュオの蘇萌と王雅夢とトリオを組み、セルジオ・アサド作曲の〈魅惑の



ガヴリエラ・デメテロヴァ&パヴェル・シュタイドル

島〉をヨーロッパ初演した。北京ギターデュオの2人は、中国の作曲家譚盾<sup>タンドン</sup>が作曲した〈水彩による8つの思い出 Op.1〉をマヌエル・バルエコが二重奏に編曲したものを作曲した。マヌエル・バルエコ自身は、ロベルト・

シエラが彼のために作曲した〈ソナタ〉をヨーロッパ初演した。このプログラムに感激した聴衆がスタンディング・オベーションで答えた。

### ロレンツォ・ミケーリ&マッテオ・メーラ

聴衆全員によるスタンディング・オベーションがあつたもう1つのコンサートは、イタリア人のギターデュオ、ロレンツォ・ミケーリとマッテオ・メーラによる6月9日(木)のコンサートで、1967年に急逝した世界的に高名なイダ・プレスティとアレクサンドル・ラゴヤのギターデュオを称えたリサイタルだった。演奏曲目はプレスティ&ラゴヤによって編曲または献呈された作品、ドビュッシー〈月の光〉、C= テデスコ〈前奏曲とフーガ Op.199〉からの抜粋と〈エレジー風フーガ〉を演奏した。デュオの2人は非常に感性の豊かな演奏家だった。彼らの演奏を通じて感じたのは、2人の息がぴったり合って



デイヴィッド・ラッセル、フーバート・ケップル、コスタス・コチョリス



北京ギターデュオ（王雅夢 & 蘇萌）とマヌエル・バルエコ



マルチン・ディラ



マッテオ・メーラ&ロレンツォ・ミケーリ



リカルド・ガジェン



マルコ・タマヨ



フーバート・ケッペルによるマスタークラス 〈アランフェス協奏曲〉

いたことで、もっとも感激したのはマッテオ・メーラが終始目をつむって演奏したにも関わらず、2人がすべてのビートで一致していたことだ。

#### その他のソロ・リサイタル

その他のソロ・リサイタルも素晴らしかった。マルチン・ディイラによる武満徹〈森のなかで〉の絵画のような演奏（6月8日）、チマローザとスカルラッティーを交互に演奏したアニエロ・デジデリオ（6月8日）、マルコ・タマヨ（6月9日）、オール・バッハ・プログラムを演奏したジュディカエル・ペロワ（6月10日）、現代のギターと19世紀ギターを演奏したリカルド・ガジェン（6月12日）、ファビオ・ザノン（6月13日）など、それぞれに優れた音楽性と高度なテクニックで演奏をした。

#### マスタークラス

フェスティバル期間中にデイヴィッド・ラッセルとマヌエル・バルエコのマスタークラスが、コブレンツ市にあるベートーヴェンの母の生家で行なわれた。



コブレンツ・ジュニア・ギター・アカデミーの生徒

他にもコンラート・ラゴスニック、ロレンツォ・ミケーリ、フーバート・ケッペル、アニエロ・デジデリオ、ファビオ・ザノン、ジュディカエル・ペロワ、マルコ・タマヨなど優れた演奏家によるマスタークラスが行なわれた。

マーク・ニーマン指揮ラインラント＝プファルツ州立フィルハーモニー管弦楽団との協奏曲のマスタークラスも開催された。演奏したのはコブレンツ国際ギター・アカデミーの学生数人と、コンクール参加者でオーディションに合格したギタリストたちだった。受講者はホアキン・ロドリーゴの〈アランフェス協奏曲第1楽章〉を演奏。

年少ギタリストのためのジュニア・ギター・アカデミーの指導者はギュンター・シリングスとトビアス・カッシングだったが、トビアス・カッシングはギター音楽のために特に設立されたレーベルであるKSG Exaudio社のプロデューサーである。

#### オアナ：ギター協奏曲 〈3つのグラフィック〉

金曜日と土曜日の夜のコンサートでは、桁外れの数の聴衆を集めた。『ギターとオーケストラのための金



オアナ〈3つのグラフィック〉のソリストを務めたゴラン・クリヴォカビチ



カルテット・フリオーソの演奏

曜のタベ》が開かれた会場は、コブレンツのライン河のほとりに建つ、美しい庭園に囲まれた、選帝侯宮殿(Kurfürstliches Schloss)という名の城だった。

マーク・ニーマン指揮ラインラント=プファルツ州立フィルハーモニー管弦楽団が、ブラームス〈ハイドンの主題による変奏曲 Op.56a〉を非常に快活に演奏し、メンデルスゾーン〈交響曲第4番イ長調「イタリア」Op.90〉では上品な演奏を聴かせた。動きの激しい指揮者だったが、楽員はその活き活きとした指示に忠実に反応していた。

モーリス・オアナ作曲の〈ギターと管弦楽のための協奏曲『3つのグラフィック』〉をゴラン・クリヴォカピチのソロで聴けたのは幸いだった。全3楽章からなるこの作品は、Graphique de la Farruca et Cadences(ファルーカとカデンツアのグラフィック)、Improvisation sur un graphique de la Siguiriyra(シギリージャのグラフィック上のインプロヴィゼーション)、Graphique de la Buleria et Tiento(ブレリアとティエントのグラフィック)という各楽章のタイトルからも想像できるように、フラメンコに触発されて作られた。作品は10弦ギターで演奏されることを前提に書かれているが、ゴラン・クリヴォカピチは6弦ギターを使って見事に演奏した。

同じ日、ゾーラン・ドゥキッチがロドリゴの〈ある貴紳のための幻想曲〉を演奏した際に、セシリア・

ロドリゴが曲目紹介の短いスピーチを行ない、彼女の母親が出版した『Hand in Hand with Joaquin Rodrigo』というタイトルの本から一節を抜粋して朗読した。

### タンゴのタベ

今年、コブレンツ市は、ドイツ・ガーデンショウの開催地だった。美しい庭園を見るために数多くの旅行者が来ていた。その特別イベントとして、コブレンツギターフェスティバルが、ライン河沿いのコブレンツ市を見下す高台にある城を使って、“タンゴのタベ”を企画した。聴衆の数の多さには驚いた。ステージの後ろを見ると場間に人々が群がり、聴衆が立てる場所はどこも“人・人・人……”という状態だった。ショウの前半は、カルテット・フリオーソ(Quartetto Furioso)の演奏で、デシデリオ兄弟(ギターのアニエロ・デシデリオ、ヴァイオリンのジェラーノ・デシデリオ、ピアノのニーノ・デシデリオ)とデシデリオの家族ではない打楽器のサルバトーレ・ミナーレの編成だった。曲目はヴィヴァルディの〈四季〉とピアソラの〈ブエノスアイレスの四季〉で、いずれも現代ヴァージョンだった。音が城全体に響き渡り、聴衆は満足した。

後半は、ロムロ・ラレア・タンゴ・アンサンブルの演奏で、バンドネオンのロムロ・ラレアと彼の娘である歌手のヴェロニカ・ラルクが加わった。彼らは素晴らしかった。ダンサーの衣装が頻繁に変わり、そこまでのプログラムと違って、とても印象的だった。彼らが一晩中踊っていたとしても、聴衆は誰一人家に帰らなかっただろう。最終的にショウを終わらせたのは、会場である城から出発するバスの最終便の時刻だった。

### コブレンツ国際ギターコンクール 2011

コブレンツ国際ギターコンクール “フーバート・ケッ



ロムロ・ラレア・タンゴ・アンサンブル



満員の聴衆



コンクール入賞者と関係者：前列左より、イアン・ワット（第3位）、チア・ウェイ・リン（第2位）、デイヴィッド・ディヤコフ（第1位）、後列左より、ナイジェル・ボイル（英国人俳優）、フーバート・ケッペル、トーマス・オファーマン（ダダリオ社）

ベル”2011の審査委員会は、コンラート・ラゴスニック教授を審査員長としてフーバート・ケッペル、アグスティン・レオン・アラ、アルフレート・アイクホルト、グレアム・ウェイド、ソニヤ・ブルンバウアー、佐々木忠、ジョン・ディアマン、アレクサンダー＝セルゲイ・ラミレス、ロバート・ブライトモア、コスタス・コチョリス、ルシオ・マタラツォ、アンスガー・クラウゼ、ゲルハルト・ライヘンバッハ、ギュンター・シリングス、フォルカー・ホー、トビアス・カッシング、テレーゼ・ワシリー・サバで構成されていた。

コンクールの入賞者は、**第1位：デイヴィッド・ディヤコフ（ブルガリア）、第2位：チア・ウェイ・リン（台湾）、第3位：イアン・ワット（イギリス）**。優勝者に授与された賞品は：スポンサーであるダダリオ社とダダリオ音楽基金によるニューヨーク、カーネギーホールのワイル・リサイタルホールでのコンサート開催、賞金1,000USドル、航空券とホテル代、ダダリオ弦3年分、コブレンツ貯蓄銀行から賞金3,000ユーロ、ドイツ国内10ヵ所でのコンサート開催、KSG Exaudio社によるCD製作が含まれている。

#### レクチャー・シリーズとその他の主な参加者

レクチャー・シリーズも多岐にわたった。アンドレアス・ミケーレ・アンディーノ博士による講義『ロマンチックという言葉の芸術的、哲学的意味について』、俳優のナイジェル・ボイルによる『ステージ上での話し方』と題したワークショップ、グレアム・ウェイドによる講義『ホアキン・ロドリゴの音楽人生』、フーバート・ケッペルによる『現代コンサートギターのテクニック』と題した彼の新刊本の概要についての講義、ロルフ・ストラバー博士とアルバロ・メンディサバルの講義『世界のク

ラシックギター市場：チャレンジとチャンス』、ギュンター・フォルステナイヒナーとミハエル・シュミツ博士による講義と討論『プレッシャーの下～ストレス対処法』。

ギター製作家も数多く参加した。ミハエル・ヴィヒマン、ゲオルグ&ロベルト・ゴセ、ゲルト・ピーターソン、アントニウス・ミュラー、アルミニ&マリオ・グロップ、シュテファン・シュレンパー、ノーベルト・ギーベル、ジェン・トウエット、クリスチャン・ストール、スウェーデンのトーマス・フレッドホルム、マドリッドの名門ラミレスのクリスチャン・ラミレス。ミシェル・マックミーケンは彼のショップを設けて、多くの客を集めていた。

今回のフェスティバルには、特別参加者として、フランメンコギター弦の新商品“トマティート”的ことを私に語ったサバレス社のフィリップ・デュラント氏とダダリ社のトーマス・オファーマン氏が来ていた。

#### おわりに

今回レポート書くのに最も苦労したのは、この素晴らしいフェスティバルの詳細を、このように圧縮した原稿にまとめざるを得なかったことだ。この原稿にはたくさんの写真を添付したが、私がフェスティバルで経験したことを皆さんに身近に感じていただくためには、もっと多くの写真を送りたかった。フェスティバルに参加し、コンクールに応募した多くの学生たちのレベルは、相変わらず高かった。良く知った顔の何人かと、今回見聞きたことにとても興奮していた新顔の若い演奏家たちが「ぜひ戻ってきたい」と言っていた。我々全員、来年のフェスティバルを楽しみにしている。



コンラート・ラゴスニックとセシリア・ロドリゴ